

# イカナゴ（地方名：コウナゴ）

以下は、コウナゴと称される当歳魚について記載します。



## 生態

- 年齢・成長：12月下旬から2月中旬にかけて仔稚魚が見られるようになります。孵化直後の仔魚の体長は約5mmであり、3月には全長が約35mmに達し漁獲加入します。全長40mmまでは約0.5mm/日で成長します。
- 分布・移動：福島県で漁獲しているコウナゴは仙台湾系群に属しています。主な産卵場は仙台湾であり、宮城県荒浜沖から福島県原町沖で12月から1月に産卵します。仔魚は1月下旬頃には福島県北部沿岸に運ばれ2月下旬には中部南部沿岸にも広がります。
- 食性：主にカイアシ類等の浮遊性甲殻類を食べます。

## 漁獲の動向

昭和40年代のいわき地域における春漁の確立や、昭和50年代初めの相馬地域における加工技術導入などを経て、全県的にコウナゴの資源利用が普及しました。

漁法は相馬地域では2そうびき船びき網及び1そうびき船びき網、いわき地域ではほとんどが1そうびき船びき網です。昭和55年に最大の10,387トンの水揚げがありました。その後、震災前までは2,000トン前後で推移していました。

震災後、操業自粛、国による出荷制限で平成23から24年は水揚げがありませんでした。その後、平成25年3月からコウナゴ漁の試験操業が開始され、徐々に漁獲量が増加しました。しかし、平成31年以降漁場が形成されず、令和5年まで操業は行われていないことから、漁獲量は0です。

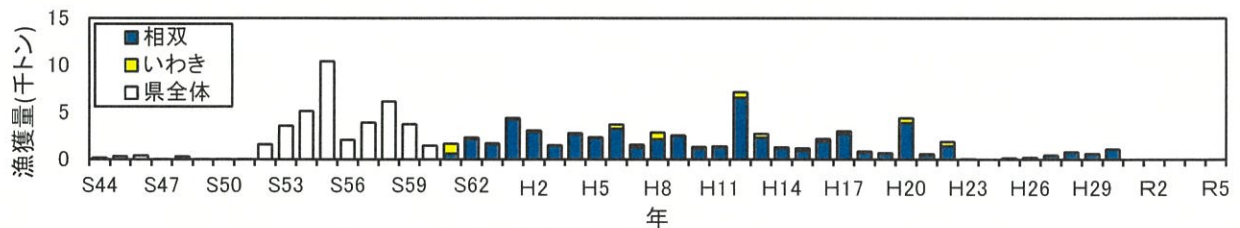


図1 コウナゴの漁獲量の推移 ※ 昭和44年～昭和60年は地区別漁獲量のデータなし

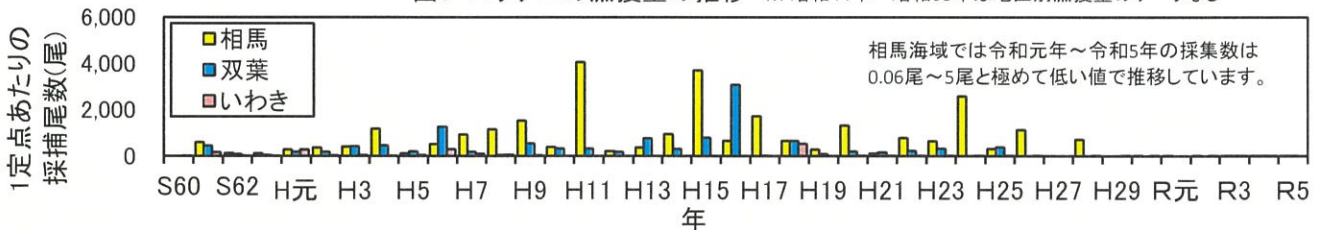


図2 丸稚ネットにおける1定点あたりのコウナゴ仔魚採集尾数推移(1月～2月)

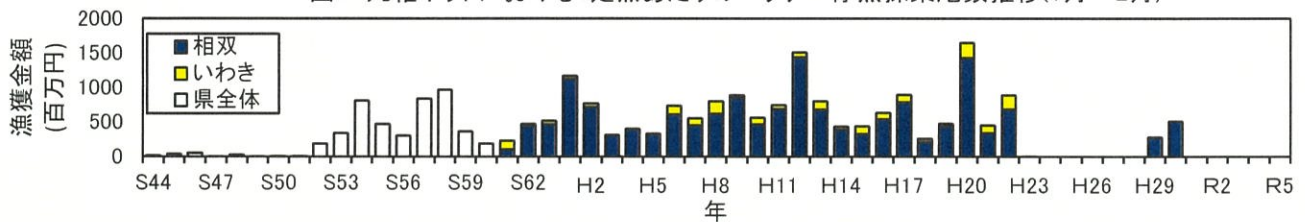


図3 コウナゴの漁獲金額の推移

※1 平成25年～平成28年は相対取引のため、漁獲金額のデータなし ※2 昭和44年～昭和60年は地区別漁獲金額のデータなし

## 資源の状態

○平成31年以降、コウナゴの漁獲量が皆無だったこと及び県の調査による仔魚採集尾数が極めて少ない状況が継続していることから、資源は皆無に近い状態であると考えられます。

資源の水準：低位  
資源の動向：－

## 現在実施されている管理策

相馬双葉地区においては、低価格の小さいサイズを獲らないように、成長を考慮して初漁日を決定していました。また、加工に適さない価格の安いサイズ(通称ジャンボコウナゴ)が一定以上混獲した場合には操業を中止することを決めていました。

今後考えられる管理策  
－